

第1学年図画工作科

「こすり出し模様の大変身！こすってうまれる私の世界～うつしたかたちから～」

学習指導者 平井 千春 ・ 支援員 永井 愛実

題材の概要

教師が波段ボールに紙を重ねてこすり出す様子を見て、「自分もやりたい。他のものもこすり出してみたい」と興味をもった子供たちは、こすり出す物や、描画材料の色などを試しながら、模様集めを行った。模様から想像を広げている友達の考えに触れたり、教師のモデルを見たりし「こすり出し模様をいろいろ変身させよう」と目標を設定して、模様から自分なりの世界を表現した。

課題設定

前時に、集めた模様から豊かに発想を広げている子供の考えを全体に広げたり、教師が模様を切ったり組み合わせたりして変身させたモデルを見せたりし、自分や友達の模様が何に見えるか話し合うことで、「模様をいろいろなものに変身させたい」という思いを高め、課題を設定した。本時の初めに、前時までの活動の様子を想起できるように前時の写真をモニターに写し、課題を確認した。

こすり出した模様をいろいろ変身させよう

解決の見通し

前時までに子供たちが行っていた様々な表し方（こすり出す物、描画材料や色、こすり出し方など）をまとめた「アイデアの引き出し」や解決する方法の掲示物を示しながら、「どうすれば、いろいろなものに変身させられるかな」と問いかけることで、いろいろな表し方を試せばよいことを想起した。また、教師が模様を実際に切って形づくる様子を見せることで、具体的にどのように変身させるとよいか見通しをもつ姿が見られた。

解決

「いろいろなやり方を試す」という方法を使いながら、模様を変身させた。子供たちは、切り方、組み合わせ方、こすり出す物や色などを試しながら、表したいことや表し方を考える姿が見られた。机を班の形にしたり、交流しやすい相手と自由に交流したりし、「見たい、見せたい」と思ったタイミングで友達と関わることで自分の見方・感じ方を広げられるような場を設定した。また、廊下にこすり出しコーナーを設けることで、自然と友達と一緒にこすり出して見せ合う姿や自分が欲しい模様をこすり出そうとじっくり模様と向き合う姿も見られた。



葉っぱの模様をこすり出したんだけど、何に変身できるかな。



〇〇さんがちょうちょの羽にしているのいい感じだよ。ほら。

振り返り

まず、教師が数名に、お気に入りポイントとその理由についてインタビューした。その後、友達同士でも、お互いのお気に入りポイントを紹介し合い、本時、自分ができたこととそのよさを捉えさせた。また、友達同士で変身をつなげて活動していた子供の姿を全体に広げることで、「みんなの作品と一緒に〇〇な世界をつくりたい」などと、次時への見通しをもつ姿が見られた。

カラフルな葉っぱの模様を4枚組み合わせたらできたよ。



考察（○：成果、▲：課題）

- こすり出してできる形や色から想像を広げ、いろいろなやり方を試しながら表したいことや表し方を考えることができた。
- ▲ 本時では、友達と関わりながら活動する姿があまり見られなかった。子供が必要感をもって交流できるようにするための活動時間の確保や環境づくりが必要だったと感じる。また、教師がねらいに沿って活動を見取り、全体に広げたり、子供同士をつなげたりする必要があった。

右のQRコードから、学習指導案や他の実践をご覧ください。

